

純心大学ニュース

(題字の色はスクールカラーの「ブルー」です)

編集・発行

長崎純心大学
広報委員会

平成23年2月25日発行

〒852-8558

長崎市三ツ山町235番地

TEL 095(846)0084代

FAX 095(846)0737代

URL

<http://www.n-junshin.ac.jp/>

巻頭言

長崎で必要とされる大学をめざす

学長 片岡 千鶴子



—三ツ山キャンパス
で学ぶ学生たち—

(ヤヌワリオホール
スタンドグラス)

二〇一〇年の長崎は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映で大いに賑わった。龍馬ゆかりの地に観光客が訪れ、さまざまな龍馬グッズが店頭並び、その経済効果も試算を上回った。同時に「龍馬伝」に登場した人物像の生きざまは現代の私たちに示唆を与えることも多かった。「黒船の来航」は日本人に長い鎖国政策によって忘れていた広い世界を思い出させ、十六世紀の大航海時代に続く第二のグローバル化の時代の扉が開かれた。その時、「黒船」の向こうの国々を見ることが出来た人々と「黒船」を邪魔者としか見ることが出来なかった人々とは歴史の関わりに大きな違いが生じた。現代のグローバル化は世界規模のコンピューターネットワークの発達によってもたらされた。人類は何時でも何処でも国境を超えて知的資源を共有出来るようになり、その情報を追って人も物も財も、交通手段の容易な利用によって国境を越えて移動する時代になった。その中で政界も産業界もさらに教育の世界も好むと好まざるに関わらず熾烈な国際競争にさらされている。

純心女子学園は、二〇一〇年創立七十五周年を迎えた。純心が長崎の地に創立されたのは長崎に根差し長崎のために役立つ教育研究を行うことを願ったからである。それは同時に「長崎」の持つ国際性によって地域にあって地域を超える精神に立脚することをも意味する。

先達たちの営為によって現在学園は文教町キャンパスに幼稚園・保育園・中学・高校、佐世保市三浦町に幼稚園、三ツ山キャンパスに大学・大学院と学園の教育組織も整った。しかし、特にグローバル化によってもたらされた政治・経済、文化的なひずみは社会に様々な格差を生み、国民の教育のありようにまで深刻な影響を与えている。今こそ学園創立の目的である地域に生きる教育研究の基盤をさらに固める時であり学園の最高教育機関である本学の担う責任は大である。特に本学の第二期中期目標は「地域貢献」である。学園では来る二〇一五年の創立八十周年を期して「創立八十周年記念事業」を企画しているが、その一つに「長崎純心大学ケアセンター扇町」を立ち上げ、本学の教育研究における臨床心理・福祉・子育ての領域が協働して展開する地域密着型相談サービスセンター事業を計画、開所準備に着手している。名実共に長崎とともにある大学として活動、貢献できることを願っている。